

園外保育の實際 (承前)

岡山市立伊島幼稚園

園外保育について

幼児教育にあつては第一が保育者の人格的感化（幾種の手段方法頭腦の佳悪より明るい笑顔の全人的なる事がその要素の第一である事は勿論であります）その次は自然より受ける感化が最も重要なことは申す迄も御座いませぬ。豊富なる人間の萌芽を培養し想像創造生活をより盛んならしめ美はしい性情を涵養し、外界の生命化を期す、これらの諸點より考察致しましても園外保育は幼児生活に最も適合し幼児の楽しい生活内容を豊富にし充實さすべきものであります。

この意味におきまして私の所の園は大變恵まれ

た環境にありますことを何時も感謝致し共々に悦びます次第で御座います。後には優麗な京山を脊負ひ前には四季交時に花咲き亂るゝ練兵場を控へ北隅には又小川のせゝらぎも聞くことの出来る大自然の中に抱かれて、園舎の比較的狹隘なる爲屢々園外に自由の羽をのばすので御座います。

京山

京山の峯續きに丁度園兒に適當する小丘があつて常盤木の松が色映えて居ります。この根が著しく出て自然の面白い形態をなして居ります一本の松の木が停車場になりピーポの音よろしく汽車は發車し次の驛（他の松の木）へ參ります切符は適宜の紙或は途中採集した木の葉の赤青により考へ出されて一等ともなり二等三等ともなります。眞

中にある一寸した盆地はトンネルにもなり又兵隊ゴツコの隠れ場所にもなります。かくして自然の粹登りにもなり自然物の利用にもなり幼児生活の要素たる遊戯的活動性の指導或は想像より創造への動的の運びともなり寸時の經つ間も意識面にのぼさない時が多うございます。

尾針神社及其の附近の小丘

山の中腹にある眺めよき神社。早出の幼児のみにて朝霧のとけぬ内石段をかぞへかぞへ登り清らかに參拜し春は櫻秋は紅葉箱庭のやうな烏瞰圖を見ては驚嬉の眼を輝かし歸りには團栗のお土産が袋やポケットをふくらします。歸園してからは自由畫にもなれば團栗の獨樂の製作にもなりお砂場の共同製作にもなります。

小川

春漸く水の温む頃にもなれば可愛い、お玉杓子も泳ぎ出す、幼児もおどる、網を持って瓶を下げ

て久し振りに小川へ行く、ちよろちよろ逃げるのをやつととつて水槽に入れたお玉杓子。あれは私がつたの、これは僕の赤ちやん見さん色々の黒ん坊。足が出次に尾がとれる、面白い習性形態の觀察の資料になります。メダカ取り或は金魚の時には藻草取りなどどんなによい觀察になり幼児を樂ませその生活を充實させることでせう。

練兵場

凧や車などの製作物を持ち行き思ふさま走る愉快さ、凧のきりきり舞ひに首をかしげる幼児、凧の尻尾をつけたす幼児、そこにも此處にも眞剣な小藝術家が現はれます。葦たんぼ、咲く頃の花輪花束がよその園の可愛らしいお客様の優しいお待遇にもなれば幼稚園の花壇或はお部室を綺麗に飾つても呉れます。

赤トンボがスイスイ飛びバツタが飛ぶ秋にもなれば尙更幼児の天地との感が深うございます。丈

を没する雑草の中に見えつ隠れつ小兵隊の演習が始まります休戦のラッパも高らかに鳴りひびきます。足音忍んで取つたこぼろぎは籠にいられて長い間飼ふ事が出来ます。これが鳴いた、あれはなかない。劔のあるのは？ないのは？。一つとして觀察の材料にならないものはなく幼児の生活内容を充實させないものはない。勿論柔らかい日射しに身體は健やかになる天と地と幼児と皆が大自然の中に融け込んだその瞬間こそ最も尊いことではないでせうか。幼稚園の園と言ふ本來の意義もこゝにあるのではないかと思ひます。(完)

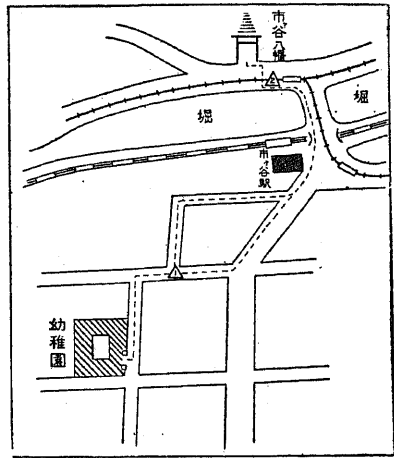
東京市番町尋常小學校附屬幼稚園

四月二十二日(市ヶ谷八幡様へ行く)

あまり麗かなお日和なので、明日の豫定をくりあげて今日出かける事にする、三人の先生で相談

がきまるとまづ本校の掲示板へ記入する者、急救箱をあらためて持ち出す用意をする者、小使に出かける仕度をさせる等手分けをする、「八幡様へ行きますせう」と云ふと皆大喜び二年保育の組はなれてゐるのでさつさと仕度をして玄關の前に並び、新入の二つの組もあとから續いてまだお附添からはなれない新入の七人だけ附添も一緒に出かける道程は約三丁、幼児の足で片道三十分あれば充分、二人づゝ手をひいて並びますが圖にある道路横断の時だけは皆一處に集り、其時の都合で全部一緒に又は二組先に一組あとに、或は一組先に二組あとに、先生が道路のまん中に立て「ハイ」と會圖をして幼児はかけ足で横ぎる、丁度横切る處に交番のある時には警官にたのむ。

三番町の方から來る幼児は市ヶ谷見附の處へ來ると、僕のうちの方だ」と云て喜んでゐる、女坂を上る時隣の士官學校の馬場がみえる一こゝ屋上



から見え
るよ」と

M君「上

幡へ行くと

ね、番町學

校がみえ

るよ」と

T君「ア

ッ蝶々！

蝶々」とK子さん、保母は春の蝶々をめづらしげに追ひよる。こぶ都會兒がいぢらしくなる。石段を上りさつてまづ參拜する、ガラス蓋の箱の中に小皿に米を盛つたのが竝んでゐる。まだ朝のうちとて誰も鳩に餌をやらないらしい。「お米のお皿いくつある？」「八つ」「九つ」「ちがふ十だ。」といふ答が出る。先生が一緒にかぞへたら十だつた。一錢銅貨がなかつたので先生は五錢を二つ錢穴に入れお

皿の米を皆に一つまみづゝ渡して鳩に與へた。屋根の上で首をかしげて、眺めてゐた鳩は、やがて一つ二つだん／＼集て来る。T雄さんはあんまり近くに来た鳩をつかまへようとしていろ／＼骨を折たあととう／＼追ひまわしたので羽音をたてゝ鳩は一齊に飛び上つた、T雄さんも皆も驚ろいた、鳩が怖がらない様に皆はそこをどいて境内に分れ／＼に行く、學校の見える處へ樹の根をよぢのぼりに。この土の上にはあらはな樹の根は「蛇の様だ」とか「ごぼろの様だ」とか大分問題になつた。根をよぢて登れる處まで手傳てのぼらせる。おにごつこ、かごめをする、あまぬぬ、こまぬぬと丈くらべをする。一時間位すぐたつてしまふ、やつぱり女坂を下りて歸途に着く、かへりは往きに比べ多少時間がかゝる。園にかへると丁度お辨當時間、仕度をして食事にする、食事中の會話に午後のおそびに、八幡様行きの畫の合作や、おもひお

もひのものが出来る、(出席幼児九七名)

五月七日、(清水谷公園へ行く)

道のりはほゞ八幡様と同様、急救箱の外にキヤラメルを十二箱用意する。いつもの様に二列にな

らんで行く。僕の家だ、光ち

やんがある」F君は歩が早く

なる、先生と子のち家も通る

わね」S子さんのち家何丁

目」七丁目」何番地」あの坂

のこつちがわ(手まねする)

でご門のところに大きないてふ

の樹があるから、すぐわかる

の」先生僕の家の方も通ると

い、なあ、あつち通ても行かれる」さうね、少し

遠いでしょ」遠くつても行かれる行かれる」ぢや

あ歸りにくたびれなかつたらね」入口の石橋を渡

るとすぐ池が目につく、藤が咲いてゐる。一寸上

を見てごらん」何があるの」きれいな花ね」何、

さくら?」いゝえ、あらアブもお花見に來ました

よ」なあに、先生」ふじの花」これ藤の花」H子

さんがこぼれたのをひろつて來る、少ししなびて

ゐるいゝ香ひがするでしよ、

「あゝいゝ香ひだ」」どんな

の」園内では大體は組々に思

ひくの行動をとる、「これ

何、お墓?」これは大久保さ

んといふ昔の偉い方の事が書

いてあるの」死んでここに埋

てあるの?」いゝえ、先にこ

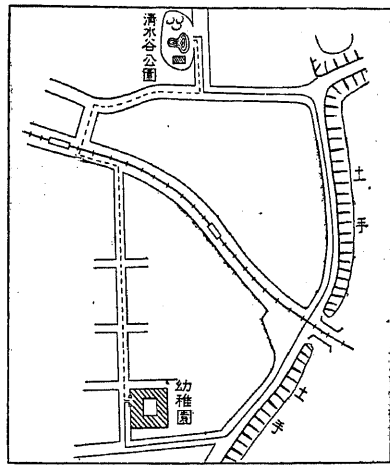
こにお家があつたから、こゝ

へ來た人にわかる様にかいてあるの」お墓ぢやあ

ないの?」え、これは石碑」せき、ひつてお墓みた

いだね」幼児にはどうもふにおちないらしい。や

がてブランコに乗る滑り臺に乗る、小山に登る、



清水谷公園

キャラメルを二つづゝ取らせる、いらぬ紙は空箱へ。

歸りには足弱と強いのと二手に別れる、強い方は土手を廻て、弱い組はもとの道を、四谷見附も麴町の通も自動車の往來がはげしいので警官におせわになる。

歸園してからYさんは取て來た毛蟲のお家を作るのに夢中、晝には大分、大久保公の石碑がかゝれてゐる。そして中へ「大久保と書いて頂戴」とたのまれた。(出席幼児九五名)

十月四日(靖國神社行き)

道のりは八幡様へ往くの約倍、幼児の步調で片道約四十分年少と年長で違ひがあり、先頭の往き方に依ても大分違ひが出来る、いつもの用意の外に大きい藥罐二つ空で小使さんに持ってもらふ。東郷元帥の邸の前を通過して店屋の多い二七通りを往くお魚屋の前で、「あの細長いお魚何?」と聞いたら

足を止めた十人程の中、Tさんがしばらくしてから「サンマ」といふ、皆がサンマと面白さうに口の中でくりかへして歩いて行く。先づお宮に參拜する。お晝に集る處をさめて置いて各組自由行動にする、パン屋さんでキャラメルを買て藥罐に二つお湯をもらふ事をたのむ。櫻の樹の間にござつこ、馬場でのかけつこ、裏の池の緋鯉にふをやつたり存分にあそぶ。

大村さんの銅像の下の大砲の處や石燈籠の處でお辨當にする、お食後にキャラメルを二つとらせる。軽くなつたバスケットをもつて往きより時間のかゝるつもりで十分時間をみて、裏門から土手をまわつて歸園する。歸園して玄關で草履袋をとると、さようならをして別れる。(出席幼児一〇一名)

十月十三日(八百屋行き)

「だれか幼稚園のそばの八百屋さんを知てゐます

大阪市立船場幼稚園

か「しらない」「あたし知てる、交番のそばを曲て行くとある」「ちかい?」「ぢやあお月様にあげるものを買ひに行くから一緒に頂戴」「あたしも」「僕も」ぢやこれ丈で「一寸八百屋さんに行きますからお願い致します。」「K先生にお留守居の子達をたのんで出かける、「行ってまゐります」と子供達、あとから氣づいた子供K先生と一緒に「行ってらっしゃい」。八百屋さんの小父さんは柿、葡萄、栗、りんご、なし、お芋、の少しづつを氣持よく

賣てくれて、「柿は小さいからも一つつけてあげましょ」とあとから袋へ足した。かへりの道々子供達は包を代り代りに持た。そして小父さんが柿をまけてくれた事を互に話してゐた。(往復と買物時とで約二十分)。

以上は園外保育のほんの一、二を日記からぬき
がきしたのです。

お問ひ合せに預りました弊園の園外保育についてお答へ致します。

一、度 數

種々の事情のため度々も致しかねますが春秋に各々一回乃至二回は行ふ事にいたしました、大體夏冬の間は出ない事にして居ります。

二、場所選擇

市内電車は別として市外電車は大抵三十分位に行ける程度のところ。

景色がよくてあぶなくないところ。

適度な遊び場のあるところ。

適度な距離を歩き得るところ。

食事の都合、便所の便利なる場所。

三、方 法

市内電車に團體で乗る事は車庫前でない限りは

不可能ですから家庭から保護者に連れられて郊外電車の發する停留場迄時間を定めて集合する事にします。大人にも子供にもそれ／＼必ず徽章をつけさせておき、職員は早くから行つて待つて居ます。定めの時刻が來れば特別電車（或は汽車）で目的地に參ります。辨當は各自持參おやつは時には一定に與へる事もあり、各々持參の場合もあり不定、大體は九時半頃大阪發午後二時半位に歸阪の豫定、時には行つた先で解散する事もあります。

目的地に於ては

自然の觀察、自然物の採集、二三の遊戲、自由のあそび等をいたしますが、競技をさせたりして褒美を與へる様な事はいたしません。

家庭の事情で附添人の無い幼兒に限り一度登園させ職員が一人ついて連れて參ります。

この他、氏神參拜や本願寺別院へ鳩に豆をやり

に行つたり銀杏の葉を拾ひに行つたりするやうなことは隨時行ひます。

○

園外保育に就て

岡山市立深抵幼稚園 折井彌留枝

當園は市の最も中央にありまして相當富裕なる家庭が多いのでありますがそれでも家庭や幼稚園に於ける生活では中々充分に日光浴をすることや大自然に親しんで自由自在に心行くばかりの活動をする様な機會は極めて乏しいのであります。故に私は特に此點に留意して屢々郊外に引卒して自然に接觸し總ての物を自然のままとして觀察せしめ彼等の好奇心究知心に満足と與へ身體の保護と増進とを計り尙優美溫雅なる性情の陶冶とに努めてゐます、何分にも幼兒數が大變多くて二百名餘もありますから全園舉つて同時に出かけることは

種々不便なることもありまゝので平素は隨時一組か二組か或は時としては半數位づゝ引卒して出てゐます。そして春秋二回かなり大規模な計畫を以て園外保育を行つてゐます。この時は家庭へも通知し保護者の參加をも求めます。これは幼稚園と家庭との連絡上の好機會であると思つてゐます。今こゝに七月に實施致しました全園々外保育の概要を左に申述べます。

一、期日昭和四年七月八日

二、場所 岡山縣上道郡三幡村大字宮道及江並海岸(本園を距る約二里)

三、目的 宮道川岸に蜆拾ひをなし水族館に於て海中棲息の動物の形態や其習性を觀察し海岸や川岸の逍遙によつて快活な氣分にひたらせて一日を愉快に過させたいと思ふ。

四、記事 兩三日前各家庭へ次の様な通知を出しました。

七月八日(月曜日)上道郡三幡村宮道へ蜆拾ひと水族館見物とに旅行を致しまして一日を海岸で愉快に過させたいと思ひますから左記事項を御承知の上で成るべく御操合せ御附添ひ下さいどうして附添下さることの出来ません方はお子様だけよこし下さいまして差支はありません。

合

一、集合 午前八時半までに遅れぬ様幼稚園に集

一、出發 午前九時園を出發磨屋町國清寺間電車

借切、午前九時四十分國清寺驛發三幡着十時

五分

一、三幡 三幡にて水族館見物

一、宮道 晝食、蜆拾ひ、宮道午後四時三十分發

國清寺驛着午後四時五分

一、歸園 國清寺驛より電車にて歸園(午後五時

解散)

一、經費 大人一人に付二十錢(電車及輕鐵賃錢

共)

幼児の負擔は全部愛兒會の方でいたしますから
いりません。

一、服装及携帶品 服装は日常の通り水筒のある
ものは携帶、辨當。

參加幼兒は前日園醫によりかなり綿密な身體檢
査をしました。

待ちに待つた當日が参りました。前日の雨は残
りなく晴れてこの上もない好遠足日和にあつて二
百餘の園兒は喜び勇んで定刻八時半より早きは
一時間も前からそのにこやかなる顔を園庭に表はし
三々伍々今日の樂しさを語り合へるさま何とも言
へぬ純眞さであります。いよ／＼附添父兄共に(同
勢三百六十人)幼稚園を出發して電車に乗り輕鐵
に乗りかへて午前十時すぎ三幡驛に到着。直に水
族館に入りました。鯛やひらめ。ちぬ。はも。ふ
ぐ其他の魚類の生活振りをしばらくみとれ此上も

なき興味を覺え且驚異の眼を以つて時の移るも知
らない程であつた。早や發車の時間がせまり魚を
心に残しつゝも又輕鐵に乗た鐵道の沿線は青々と
した稻田でいと心地よく互に喜び語り合ふ内に早
くも宮道驛についた。川邊は緑の毛氈を敷きつめ
た様な青草や芝生の上に莫産を敷き天幕を張りて
我一行を待ち受けられて居つた。しばらくそこに
休憩してから晝食しました。前には旭の清流を眺
め脊後には人丈けにもあまる芦が立繁り實に其涼
しさ何とも言葉には盡されません。全く天國に遊
んだ氣持です。誠に子供の遊び場としては適當な
處であります。食事中からポツ／＼と引潮となり
みる／＼中に一面の大きな洲に化してしまひまし
た。食後しばしの後輕さ仕度をなし手に／＼籠や
其他の用具をもち勇み勇んで一目散に覗取りにか
ゝりました。其活氣溢るゝ有様全我活動とは實に
この事でございますか。懸命に覗を拾ふもの大

きなのみ拾ふもの極小さなのみ集めるもの大小ごちやませに集めるもの。かにを追ふもの、自然の大砂場にて山を作るもの。池を堀るもの、疲れた眼に空をあふげば西南には高く兒島富士の秀峯をびえ近く帆掛船や巡航船の航行も瀕繁で山水の佳景を一眸にあつめるといつても過言ではありません。又淺瀬でボートや小舟を浮べ相互に乗つて喜ぶもの舟をエイサ／＼と押合ふもの實に愉快其のものゝようです。子供がこんな生活によつて思ひ切つて遠慮なくそれ／＼の個性を發揮する様をみて何とも言ひ知れぬ或る尊いものを感じました。

この日の幼兒相互の問答にこんなものがあります

一、川に澤山あつた水がどこへいつただらう

一、蜆を澤山誰が蒔いたのでせう

一、このお池の水はどこからくるのでせう

一、帆掛舟がひとりで行くのは妙です

などきゝ捨てにならぬ最もおもしろい問答の數々

が起り其貴い疑問や其觀察の鋭敏なることは驚くの外はありません。午後四時歸途につきました。又輕鐵に打のり白いエプロンの掛けた天使のような幼兒が勇ましく窓から日やけのニコ／＼顔を出し汽笛と同時に萬歳々々の聲を残して汽車は進行しました。間もなく國清寺驛に着し市電に乗りかへて附添人のあるものは隨意解散し残る幼兒は保姆と共に幼稚園まで歸りそれ／＼歸宅させました。そして楽しい夢路を辿つたことでせう。